

中間とりまとめ(素案)からの主な変更点①

平成29年11月10日
交通政策審議会
第69回港湾分科会
資料2-2

○「港湾における中長期政策検討のための懇談会」(平成29年8月29日及び10月3日開催)における議論、委員からの意見等を踏まえ、以下の内容を中間とりまとめ(案)に記載。

1. 新たな付加価値を生み出す臨海部のロジスティクス空間の創出

・「2. 持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築」に記載していた内容を、「1. グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築」に移動し、農林水産物の取扱を含めた高規格ロジスティクスセンターの必要性を記載

2. 外内貿フェリー・RORO輸送網の構築を支える港湾機能の充実

・「1. グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築」、「2. 持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築」及び「3. 列島のクルーズアイランド化」において、以下の<施策の方向性>を記載

①船社との協働による、内航フェリー・RORO船ターミナルのスペックの統一化

②ふ頭再編による外内貿ターミナルの近接化、航路拡幅等による航行環境の改善

③「次世代高規格ユニットロードターミナル」の概念の明確化

(※ICT技術を活用したトラック/シャーシの管理システム及び車両決済システム、船舶の自動離着桟システム等)

④行政機関、荷主、運航事業者・物流事業者等が連携した、共同輸送の促進

⑤国際フェリー・RORO輸送システムの海外展開

⑥観光振興の観点からのフェリー活用の促進 等

3. 離島の振興や生活を支える港湾機能の充実

- ・「2. 持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築」に、以下の <施策の方向性> を記載
 - ①離島を含む地域の農林水産品等の輸出・移出を支える港湾機能の強化
 - ②厳しい自然条件に対する船舶の入港環境の改善

4. その他

- ・「Ⅲ. 港湾政策の変遷」において、既往の港湾の中長期政策及びビジョンを網羅的に記載
- ・「4. ブランド価値を生む空間形成」において、「文化・歴史を活かしたみなとまちづくり」の取組を記載
- ・「6. 港湾・物流活動のグリーン化」において、「洋上風力発電、バイオマス発電等の再生可能エネルギーのより一層の導入」の必要性を記載
- ・「7. 情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化」において、「AIターミナル」に関する説明を「近年、目覚ましい発展を遂げているAI、IoT、自動化技術を組み合わせ、世界最高水準の生産性を有し、労働環境の良いコンテナターミナル」に変更
- ・「8. 港湾建設・維持管理技術の変革と海外展開」において、「生産性の高いターミナル運営を実現するための、適切な港湾施設の維持管理の必要性」及び「民間企業を含めた技術者・技能者の確保」を記載
- ・「Ⅵ. おわりに」において、「変化を続ける国際的な貿易/物流動向に対応して、引き続き、議論を深めるとともに、随時見直しを行っていく。」方針を記載

港湾の中長期政策「PORT 2030」 今後の検討の進め方

